

# 内臓のモビライゼーション臨床報告 10月度 (2018)

## 【大腸】

患者氏名	日付	施術部位	効果	詳細
Y.W.さん 84歳 女性	10/2	大腸	下肢支持 △	両下肢ともに、臥床で片側下肢を挙上維持する筋力テスト実施。両側とも空中支持が乏しい（右>左）大腸施術後に、取り立てて変化はみられません。
	10/9	大腸	下肢支持 △	全身倦怠感あり。前回同様空中での下肢支持が乏しく、筋力テストでの支持力、持続時間も同様です。大腸部位の施術時の圧痛が強いですが、施術後はやや支持力改善していました。
	10/16	大腸	下肢支持 ○	全身の倦怠感は前週より続いています。下肢筋力テストは比較的良好で、空中での単独支持を左下肢がわずかに行えていました。腹部施術後の立位姿勢が明らかに改善していました。
Y.K.さん 80歳 女性	10/3	大腸	便秘 △	頸椎損傷以後、便秘が発症。常時、下剤を服用しています。腹部施術では張りが強く圧痛が強く出ています。施術後、腹部柔軟性は改善したものの効果は不明です。
	10/17	大腸	便秘 ○	前回施術後から排便が定期的になり、腹部の膨満感が減少しています。まだガスが溜まっているようですが、柔軟性があります。大腸施術時の圧痛は前回より格段に減少しています。
	10/31	大腸	便秘 △	腹部の張りが強く、本人自覚あり。再び数日排便が止まっています。大腸施術では圧痛が強く出ていましたが、施術後は腹部の張りが減少しました。
Y.K.さん 82歳 女性	10/2	大腸	下肢痛 ○	立位不安定。荷重時に左大腿部痛があり、そのために左下肢の支持力不足がみられます。施術前後で左下肢の可動域に変化あり（挙上20°→70° 空中支持 0°→45°）
	10/9	大腸	下肢痛 △	前回より大腸部の緊張が減少。圧痛はあるものの、それも減少。施術前後の下肢筋力テストでの変化はみられませんでした。立位での安定感、下肢への力の入れやすさは改善がありました。
	10/30	大腸	下肢痛 ○	大腸部に硬さが強くあり、施術時の圧痛も強い状態です。下肢筋力テストでは左下肢↓ 大腸施術後、下肢支持力の改善がみられ、空中での静止が可能になっていました。
M.Y.さん 79歳 女性	10/23	大腸	腰痛 ○	左腰背部痛が強く、重だるさも慢性的に出現。上下結腸部（大腸）に強い圧痛あり。施術後には軽快感があり、腰部の緊張が減少。立位で腰痛の減少が実感されていました。
	10/30	大腸	腰痛 △	ご家族の介護量が増していて、全身の筋緊張が増悪し腰痛も強く出現。立位では骨盤後傾、腰椎後湾が顕著にみられます。施術後には腰部はじめ全身に軽快感があり、痛みが減少していました。

○：一定の効果、実感あり

2→1：施術前後の痛みの変化（本人にとっての最大痛値を5に設定）

△：効果の本人実感があまりない

筋力テスト：仰向けで、下肢を伸展位で上方へ挙上する（挙上テストと同義）

## その他 臨床報告

### 「効果がみられなかった症例」

腹部の柔軟性が改善したということでは、ほぼすべての症例で改善効果がありました。しかし、対象とした症状の改善については、改善効果が出なかった場合が多くみられました。大腸施術は主として便秘の改善、腹部の緊張低減による動作性の向上が施術効果として考えられますが、その他の症例でも改善がみられるものもあり、対象範囲が限定しにくいことも、結果的に効果がみられにくい症例が起こる要因と考えられます。

そのほかの要因として、技術の不足も考えられます。着衣の上から大腸を正確に捉える必要があるため、感覚が身につかない段階ではやや難易度が高い施術と言えます。

## 考察

今回取り組みました大腸のモビライゼーションは、前回の小腸モビライゼーションと同様、この技術単独での効果を狙った施術というよりも、他の技術の補完的な位置付けでの技術であるという印象を持ちました。

この技術は腹部へのアプローチですが、副次的に下肢の動作性、支持力の改善効果がいくつかの症例でみられました。腹部そのものはもちろん、下肢への影響といったやや広範囲での効果が見込める技術であるものの、単一の技術としては、患者本人の実感も含めやや効果が乏しいため、前述の通り他の施術との併用により、効果の補完をすることが望ましいと考えます。

今回の症例の多くで、大腸モビライゼーションの施術時に患者に圧痛が生じています。未然にトラブルを防ぐ意味でも、施術についての事前の説明が必要であり、さらには患者と施術者との信頼関係も重要となってきます。

今回の症例における効果の大小は、技術の未熟さのためか、本来的に大きな効果が得られるものではないのかは、現段階では判断が付きません。しかし、身体的な問題や生活習慣のために、日常の運動量が著しく少ない患者では、腹部（特に腸）の活動が低下した方も多くみられます。腸活動を賦活させることで、健全な身体機能を取り戻すための手助けになる可能性も大いにあると考えます。そして、そのための手段として、大腸モビライゼーションが有効な技術の一つとなるよう今後も努めていきます。